

4000万人の頭痛

79

小児の頭痛

第9回 く咳をすると頭痛を訴える際には

文
清水俊彦

text by Toshiko Shimizu

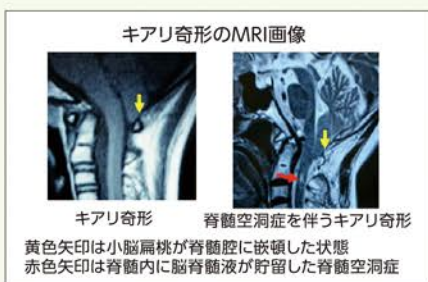
咳をすると頭が痛い—子供が風邪をひいた際によく聞かれる訴えのように思われがちですが、熱発と共にこのような症状をきたした際には注意が必要です。通常、風邪を引いた際には、何かしらの頭痛の訴えは最も多いのですが、これは熱発により脳血管や脳硬膜に分布する血管が炎症を生じ拡張して起こっているものと考えられています。

脳血管は外部からのウイルスや細菌の侵入を防ぐ脳血液関門という特殊な機構で守られているため、通常の状態ではウイルスや細菌による脳炎や髄膜炎などの生命予後に支障をきたすような重篤な状態は、そう容易く起こることはないのです。しかしあまりの高熱により、この脳血液関門が破壊されたり、また破壊された部位を修復する働きのある血液中の血小板の作用が減弱していたりすると、ウイルスや細菌が脳内に侵入し、脳に重篤な炎症を引き起こすことがあるのです。

この際に、脳血管から水分も漏れ出し、脳浮腫という脳全体が腫れあがった状態をきたすため、咳をしたり、力んだりした際に脳圧が上昇し、脳全体が脊髄腔に落ち込むような状態から頭全体が痛むことが多いのです。このよ

うな状態から引き起こされる頭痛を牽引性頭痛と呼び、脳の危機的な兆候として注意が必要です。また熱発がなくとも、このような頭痛が日増しに増悪する際には、頭部外傷後に脳内に徐々に血液が溜まり脳を圧排する慢性硬膜下血腫や、最悪、脳腫瘍が成長しつづけるような状態も考えられるため、一刻も早く専門の医療機関で精査の必要があります。

また小児に特有の生来の異常から、このような牽引性頭痛をきたす疾患として、キアリ奇形という疾患があげら



れます。この疾患は頭蓋陥入症とも呼ばれ、生まれつき小脳扁桃という小脳の一部が脊髄腔に嵌頓しており、年齢と共に進行してゆくと、第一頸椎内で嵌頓した小脳

扁桃により脊髄が圧迫されたり、脳神経が圧迫されるため、やはり咳をした力んだりした際に頭痛を多く訴えます。さらに進行すると脊髄内の循環不

全から脊髄空洞症という脊髄内の脳脊髄液の貯留をきたし、手足の感覚障害が出現することもあるのです。根治的には減圧などの脳外科的手術が必要になる場合もあります。

元来、訴える表現の乏しい小児ですが、頭痛の性質と起こり方によつては、これらの危険な頭痛の存在も考慮し、注意して観察することが必要でしょう。

Profile

日本脳神経外科学会認定医、日本頭痛学会監事を歴任。日本頭痛学会認定専門医。東京女子医科大学病院脳神経センター頭痛外来客員教授、獨協医科大学神経内科学講座臨床准教授、一般社団法人グリーンケアパートナー理事。

ほかに、汐留シティセンターセントラルクリニック、阿見第一クリニック、小山すぎの木クリニック、マミーズクリニック、伊豆大島医療センターの頭痛外来を担当。

昭和61年3月日本医科大学卒業。学会活動をはじめ、NHK「きょうの健康」「クローズアップ現代」など、テレビ出演も多い。『頭痛女子のトリセツ』（マガジンハウス）をはじめ、頭痛関連の著書多数。



新刊「マンガでわかる頭痛・めまい・耳鳴りの治し方」
監修/清水俊彦 推薦/佐渡島庸平
新紀元社 (1,080円(税込))販売中。